

AP

100 Years and Beyond

COMMUNICATION

株式会社アピックス 社外報



特集

共に学びあうインターンシップを目指して

令和四年
2022 Sept.

Vol. 47

共に学びあうインターンシップを目指して



見えないところを工夫しています!

プロダクションマネジメント部 大上 由紀子



プロダクションマネジメント部では、こういったものを作成しているのか、というお話をさせていただいたときから、日本語が上手で、知識も豊富で会話がスムーズに進み、「早く現場を見たい」と、とても積極的な姿勢だったのが印象的でした。

実際に現場での業務を体験していただいた際にも、たくさん質問をしていただきました。データ作成時に、読み込みに時間がかかる、と説明した際に「なぜ?」と質問いただいたことは、とても新鮮でした。時間がかかる＝待つ、という姿勢が自分の中で当たり前になっていることに気づききっかけになり、何が原因か?改善できる部分は無いかと日々の業務を見つめ直す機会になりました。

また、同じ作業を繰り返し行うデータ作成方法から、

決まった手順を設定したワークフローシステムに移行した、といった業務の改善について説明した際は、「こちらのシステムは(提供会社が)アピックスのために開発した?」と質問されたことで、「システムは提供されているもので、こういったワークフローにするかはアピックスで商材や仕様毎に設定している」「ほかにどんなことが出来るのか?」と、かなり深いところまで会話が進み説明できたことが、とても嬉しかったです。

成果発表会では、プロダクションマネジメント部を〈0からモノをつくる〉〈見えないところを工夫しお客様が思い描くイメージにぴったりの「もの」をつくる〉とまとめていただきました。実際に業務を体験していただいた中で感じたことを、分かりやすく、素敵な文章で表現していただいて、とても感動しました。

インターン生との会話の中で、コミュニケーション力、日々改善していく前向きな姿勢など、たくさんの刺激をいただいたことは、とても貴重な経験になったと思います。



一週間のインターンですが、会社と共に、自分の可能性を無限大!

インターンシップ生 丁 睿朗
てい えいるう

2017年より、年に数回定期的にインターンシップ・プログラムを実施しています。これまで、日本人大学生だけではなく留学生や海外人材など多様なバックグラウンドを持つインターン生に参加して頂いていますが、実施する社員にとっても新たな気づきを得られる大切な成長の機会になっていると感じています。



刺激・気づきを頂きました。 丁さんの姿勢に感謝します。

カスタマーリレーション部 部長 岡本 匡史

カスタマーリレーション部として、初日の事業説明、4日目の業務説明のところで関わらせて頂きました。まず、丁さん自身が現在も長崎県平戸市役所で国際交流員を務められている事もあり、そのキャラクターや発信力がしっかりしていたのと、理解力・意欲ともに高く、説明する側としても、とても気持ちよく受け入れることが出来ました。また我々としても自身の事業・業務を見直す良い機会になったと感じています。

当社が推進するBPO事業は、言葉で説明しようとする難しい側面があり、真に理解いただこうとすると、その背景やステークホルダーとの関係性など様々な説明が必要になると考えています。例えば現在も学生さん向けに事業を説明する為には、どういう工夫が必要か試行錯誤していますが、丁寧に説明しようとする情報が多すぎて逆にややこしくなってしまう。これはBPO事業の場合、案件ごとに役割や成果が違うため、どうしてもその背景を説明しなければいけないという意識がはたらくのだと思います。

そんな中、4日目の業務説明の際に、丁さんから「学生には学生目線の捉え方で説明すると理解しやすいと思います。例えばステークホルダーを教授や他の学生に置き換えて説明すると良いと思います。」という意見を話してくれました。すごくシンプルな

意見ですが、なるほど、ハッとする場面でした。そもそも説明される方の背景をもっと汲む必要があったかもしれない、またBPO事業の説明は難しく、背景を説明しなければいけないという固定観念があったかもしれない、そんな気づきを頂きました。

日頃の業務の中で、多くない気づきをこの短いインターンシップの中で感じられたこと、また意欲を持って取り組んでもらえたことは関わったメンバーにも良い刺激になりました。

改めて感謝したいと思います。そして丁さんの今後のご活躍を心から願っております。



インターンシップのため、会社の情報を収集した時、デジタル化がどんどん進んでいる中、APIXさんの印刷業務はどう進めていくかという疑問がありました。1週間のインターンを通して、一生懸命新しい知識を吸収しながら、BPO業務の仕組みはもちろん、会社が提供できる多様なサービスの可能性も感じました！PM部で実務業務を体験した時、自分は今日から会社に入って、先輩から仕事の説明を聞いて、自分が仕事をすることをイメージしながら、限られた時間で仕事の内容を理解できるよう頑張りました。そして、CR部の研修を通して、会社の将来の発展性、まさにX-BPOではないかと思っています。CR部の方に「なぜ日本で就職したい」と聞かれた時、「会社と共に成長したい！」と答えました。せやな、APIXと共に！



「志プロジェクト 始動」 ～企業のWikipediaを作ろう～

代表取締役社長 河村 武敏



6月にコロナ感染が落ち着いたのもつかの間、今年も予想通りの連日の猛暑・酷暑に加え、7月、8月とコロナ第七波感染の急拡大もあり、気力・体力とも消耗する夏となりました。その夏もお盆が終わるころから空気が入れ替わり、このvol.47発刊の頃は秋の気配を感じる季節になっている事と思います。

さて、弊社は少子高齢化が進む中、若い人材に興味を持ってもらい、人材採用につなげることを目的とし、インターンシップ活動に力を入れています。

その中でも今年で6年目になる「志プロジェクト」をご紹介します。地域活性化の取り組みのひとつとして、大学と地元企業の相互理解を深め、次世代の人材育成に資することを目的とし、CSR活動の一環として推進しているプロジェクトとして2018年に始まりました。大学は大阪経済大学経営学部、地域金融機関は商工中金船場支店、インターンシップ訪問先は金融機関の取引先企業4社様（弊社含む）、そして地域事務局としてアピックスが担います。（下図を参照）



そのような活動に大学側も興味を持っていただき、6年目の今年からは「地域企業連携実習」として授業に組み込まれる活動にまで成長しました。その活動の一端を紹介させていただきます。

昨年の実習テーマはvol.45でもご紹介させていただきましたが、「足元のSDGsを探そう」でした。今年度実習は「企業のWikipediaを作ろう」というテーマのもとで、学生が参加企業を取材して、企業のWikipediaの項目を作成・改訂することを目指します。Wikipediaという公共性の高い情報を作成することで、学生に「知の担い手」になってもらい、参加企業にとってもWikipediaという最も人目に付きやすい形での情報発信につながるという意味で、学生・参加企業双方にメリットのある活動ではないかという事で、今年の担当ゼミの稲岡大志先生（右写真参照）とともに起案いたしました。



稲岡大志准教授

Wikipediaは、学生が就活時に企業ホームページの次にアクセスする情報という事、実際に今年の参加企業様でWikipediaが存在する企業様は1社のみという事で、企業側もこの活動に今年も期待していただいています。

9月下旬からこの授業がスタート、来年2月の成果発表会まで約5カ月弱、学生目線からのWikipedia作成が今から楽しみです。

改めてこの活動は、今後の社外報でも報告させていただければと考えています。乞うご期待を。

Wikipediaとは →



検索画面で

株式会社アピックス

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2
TEL:06-6271-7291 FAX:06-6271-7296

東京支店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル3F E-mail info@apix.co.jp
TEL:03-5879-7291 FAX:03-5879-7296 URL http://www.apix.co.jp